

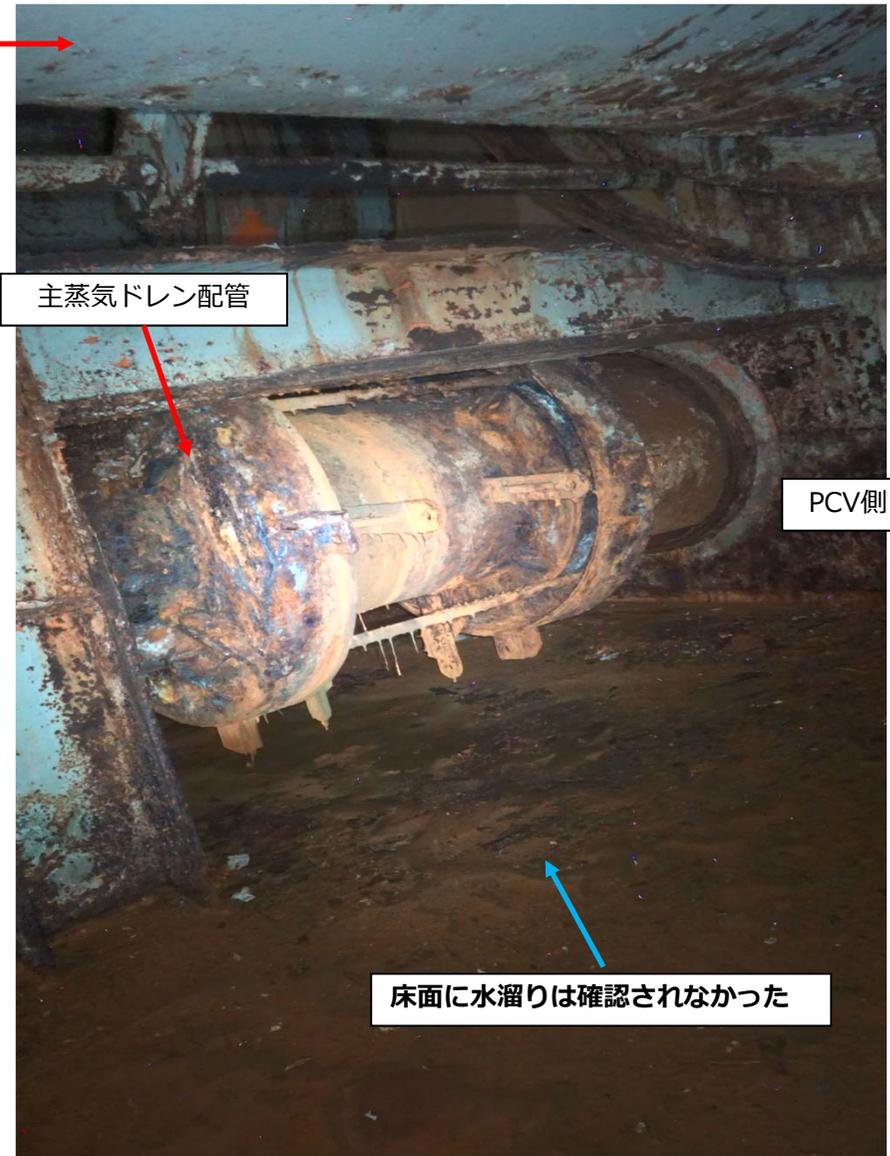
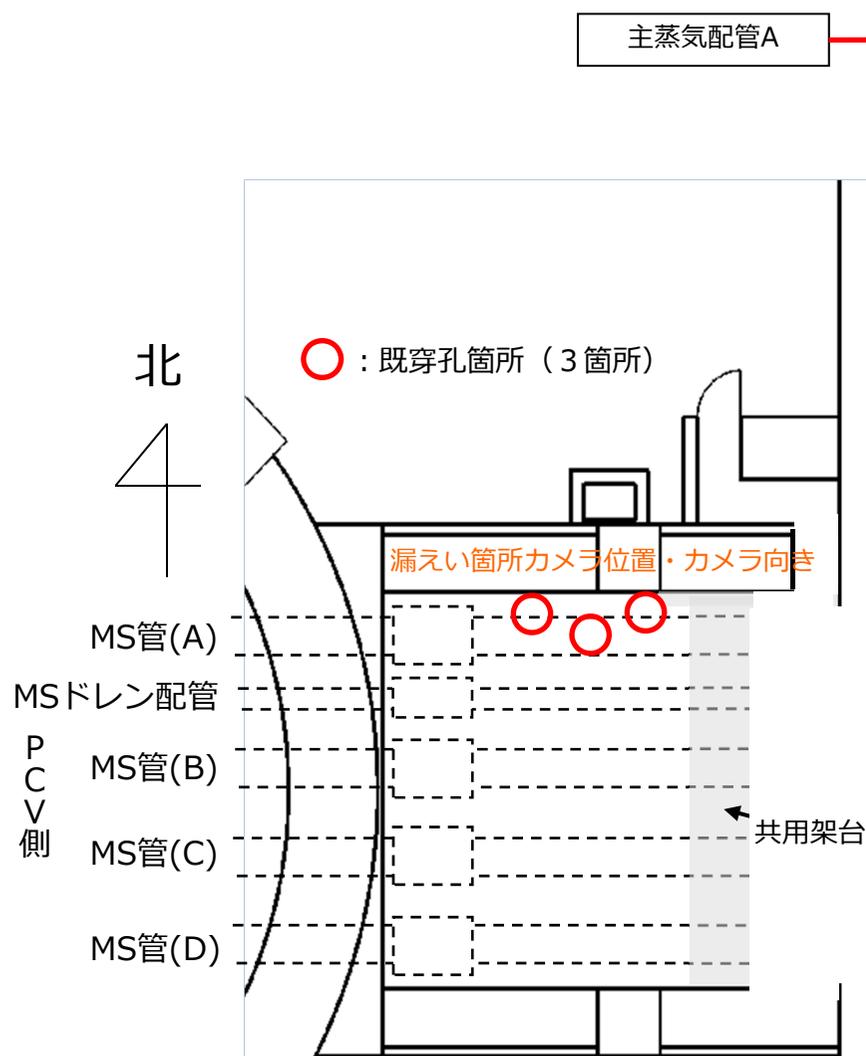
福島第一原子力発電所 3号機MSIV室内の調査結果について

< 参 考 資 料 >
2022年6月10日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2021年4月から5月にかけて、3号機原子炉注水停止試験に合わせて実施した主蒸気隔離弁（以下、MSIV）室内の調査において、主蒸気配管A伸縮継手部（以下、当該継手部）下側の水面に漏えいによるものと考えられる揺れ・波が確認されておりますが、漏えい箇所の特定には至らなかったことから、この度改めて漏えい箇所の特定を目的に調査を実施こととしました。
- 本調査については、MSIV室上部にある空調機械室から、前回調査時に波紋が確認された当該継手部近傍にカメラを吊り下ろし、漏えい箇所の調査を行うこととし、その事前準備として、3月22日から4月18日にかけて、MSIV室天井部にカメラを吊り下すための穿孔作業を実施しました。
- その後、カメラ投入に向けた準備作業やカメラの操作訓練を行う等の事前準備が完了したことから、6月8日から6月9日にかけて、MSIV室内当該継手部手近傍（主蒸気ドレン配管含む）および、周辺の調査を実施しました。
(6月9日までにお知らせ済み)
- 調査の結果、当該継手部および近傍にある主蒸気ドレン配管からの水の滴下がないこと、ならびに当該継手部下部の床面に水たまりがないことを確認しており、今回の調査では漏えい箇所の特定には至っておりませんが、現在もPCV計算水位の緩やかな低下傾向が継続していることから、当該継手部近傍の漏えい箇所の他に、現在のPCV水位よりも低い位置に、何らかの漏えい箇所が存在するものと推定されます。

-
- なお、原子炉注水は継続的に実施しており、燃料デブリの冷却についても問題なく継続しており、プラントパラメータの監視により異常等がないことを確認しています。
 - 今回の調査結果をふまえ、格納容器の漏えい箇所の把握につとめて参ります。

調査結果



【参考】作業概要

MS I V室天井部追加穿孔箇所
(3箇所：約Φ120mm (最大) , 深さ約1.5m)

